

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100612		
法人名	(株)ケア・トラスト		
事業所名	ぐる〜ぶほ〜む笠市		
所在地	石川県金沢市笠市町11-19		
自己評価作成日	令和7年10月10日	評価結果市町村受理日	令和7年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社emu
所在地	石川金沢市窪7丁目364 伏見台ガーデンコート西尾ビル506
訪問調査日	令和7年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちが胸を張って「良いケアをしている」と誇りを持って居る職場で在り続けるために、スタッフの専門性向上に力を入れております。全職員を対象としてアンガーマネジメントに関する研修や、介護保険法とそこから求められる介護士像についての研修など、入居者様の尊厳を守るケアの実践に繋がるような研修を多数実施しております。お一人おひとりの言動の背景を深く理解し、よりその人らしい穏やかな生活をサポートできるよう、今後も努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の企業理念をさらに具現化し、今年は「優気」を目標にお声かけや支援に励まれている。感染症などで施設の面会を制限した時期もあるが、その期間も家族との外出は食事をしないことをお願いし、墓参りや通院などされている。利用者の食の要望についてもレクリエーションやおやつ作りなどを取りいれている。散歩や買い物などの要望も多く、運動もかねて出かけられている。終末期では、医師、家族、看護師、介護士が連携を取りながら、看取りが行われており、家族からも感謝されている。最近はゲリラ豪雨なども多いため、BCPによる避難訓練なども定期的に開催されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として「優気、礼気、驚気」を掲げております。各フロアにその理念を掲示しており、その理念に繋がるものとして、虐待予防やアンガーマネジメント、介護士のあるべき姿勢などの研修や振り返りを毎月実施し、職員のケアの質の向上に努めております。	法人の理念「優気、礼気、驚気」があり、事業所では今年度は「優気」を目標にお声かけや支援に励まれている。言葉遣いはスピーチロックにもつながることから、日頃から意識されている。管理者は研修、委員会、ミーティングなどを通じ、理念の共有をされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	面会は感染対策を行いながら応接室や本人の居室で行っています。季節に応じて外出行事も行ったり、近所への散歩を実施したりしており、職員だけでなく、ご家族と散歩に出かけることもあります。運営推進会議には地域の方々にも参加していただいております。交流・繋がりを大切にしています。	コロナウイルス感染症の対策のために、面会は個人の居室ではなく応接室を利用させていただいている。外出はご近所を散歩したり買いものなど行われている。運営推進会議では地域の方にも参加していただき、事業所の状況など理解していただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事や町内会の会議に参加しています。運営推進会議では地域の方々にも参加して頂いており、良好な関係を築けています。地域密着型事業所として相談の窓口にもなれるよう、家族や地域の方々とのコミュニケーションを取るようになっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月毎に開催しており、金沢市や大手町地域包括支援センター、民生委員、地域の方々、利用者様やご家族様等に参加して頂き、意見をお伺いさせていただいております。	運営推進会議は2か月に一度、定期的で開催されている。金沢市や地域包括支援センター、民生委員や地域の方を交え、事業所の状況を報告したり、地域の取り組みについて情報をいただき、地域の課題なども話し合われている。	防災の避難所でもある地域の小学校などとも連携が取れ、情報交換できることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いております。会議時やそれ以外でも疑問に思うことなど相談ごとがある場合は、問い合わせをして、協力関係を築くよう取り組んでおります。	生活保護の方が入所されているため、市役所の支援課の方とも情報交換されている。また、転倒などの事故の報告などもタイムリーに行われており、協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に身体拘束をしないことを徹底するために玄関事務所には指針を掲示しています。外部、内部の研修にも参加し、意識の向上に取り組んでいます。当事業所内でも身体拘束廃止/虐待防止委員会を設け、委員会や各フロア会議で話し合い、情報を共有しています。	身体拘束・虐待については、社内で委員会があり、3ヶ月に一度実施されている。それに参加されたスタッフは事業所に戻った際に、朝礼やミーティング時に情報を共有され、周知されている。また、スピーチロックなどになりそうな言動についてはその都度、お互いに注意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する内部研修を定期的に行っています。虐待防止委員会やフロア会議で話し合った内容をグループ全体のコンプライアンス委員会で提案し、外部の意見を取り入れています。またユーチューブ研修を行い、職員に報告書を提出してもらっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族が後見人になられている入居者様や、行政書士の方が後見人になっている申込者がおられ、学ぶ機会がありました。今後も必要性に応じて、学びを深めていきます。また、成年後見等についての内容を含んだ研修を年1回行っており、今後も職員の理解が深められるように取り組んでいきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に正確に契約内容について説明し、同意のサインを頂いております。また制度の変更や契約書の内容に変更があった場合は、その都度ご説明させていただいており、必要に応じて署名を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された際や、電話した際に近況を報告し、意見やご要望を確認しております。ケアプラン更新時は家族の意見や要望を必ず尋ね、ケアプランに反映しております。最近では外出や散歩の希望があり、散歩やドライブなどを実施しました。またご利用者様からもご要望があればご家族にお伝えし、差し入れ等行ってもらっています。	利用者からの要望としては「ドライブに行きたい」などが多く、ドライブの帰りにおやつを食べたりすることを楽しみにされている。家族の要望としては「穏やかに過ごしてほしい」、「写真が見たい」、「今は外出してもいいか」などが多く、感染症が流行している時でも、食事はしないという制限を設けているが、家族と外出されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各階の代表者や管理者が参加するフロアーミーティングを行っております。又、個人面談も年2回実施し、意見や要望などないか聞いております。	職員の意見はケアに関するものが多く、ケアのやり方やプランの変更など話し合われている。スタッフ間のトラブルがあった際は個別に話を聞いている。子どもの病気の相談などもあり、相談しやすい関係が構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員を対象とし面談を実施しており個別に話しをする機会をつくっています。また、仕事に対するやりがいを頂くため定期的に意見を聞く為に、話しやすい環境に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を毎月開催しています。外部研修参加は職員の希望を募り、興味のあるものに参加してもらっています。また研修の内容はフロア会議など内容を話してもらい、他職員とも共有できるようにしています。今後も職員のケアの質向上を目指して定期的に研修を行っていくとともに、外部研修へ積極的に参加できるように環境を整えていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上につなげるため、サービス部会など、県や市が主催する研修会へ参加し、他事業所の職員との交流する機会を設けております。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族とお会いする機会を作り、困っていることや要望等をお聞きしています。また利用されているサービス事業所の職員様や地域の馴染みのある方から情報を得るように取り組んでおります。入居されてからも、不安な事や要望などをお聞きして対応させて頂いております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用開始前にご家族様からヒアリングを行い、ご利用者様本人だけでなく、ご家族様が困っていることや不安なこと、要望などの把握に努め、目標や想いを共有した協力者となるように努めております。また入居者様に何か変化があった場合はもちろん、普段から近況の様子を電話やSNSを利用して、お伝えしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用開始前にご家族様からヒアリングを行い、不安な事や要望等をお聞きして対応させて頂いております。また必要に応じて併設の小規模多機能への利用をおすすめしたりして、本人やご家族の思いや状態に応じた支援が行われるように取り組んでおります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の持てる力をアセスメントした上で、洗濯物たたみや食器を拭いてもらうなどの日常生活上の家事を職員と共にやってもらったり、自身で出来ることはなるべく自分でやってもらったりしています。また、行ってもらったことに対して感謝の気持ちを伝えるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランに家族の参加も入れ込み、ご家族にもドライブや行事に参加いただくように促しています。差し入れて頂いたり、施設近隣をご家族と一緒に散歩に出かけてもらったりしています。また必要な消耗品や衣類の用意等、何でも職員が対応するのではなく、ご家族様にも協力していただきながら、入居者様とご家族様の絆が保てるよう支援を行っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族を含め、県外の親戚や友人等も面会できるように取り組んでおります。また、近隣の散歩やドライブにもご家族と出かけられるように支援している。地域の飲食店のテイクアウトを利用したり、ご家族に馴染みの食べ物を差し入れてもらったりしております。	彦三緑地公園などに行ったりドライブなどで懐かしい場所に行かれたりしている。妹さんが来られる方などもおり、家族の面会は楽しみにされている。友人が来所されるときもあり、家族に了承を得て面会されている。家族とは墓参りや法事などにも参加されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様と職員と一緒に家事を行ったりしながら入居者様同士の関わりが持てるように支援しています。又、入居者様同士のトラブルが起きないように座席を工夫したりそれぞれの能力に応じた役割を持っていただき、支えあえるように支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様のご家族様やご本人様とは必要に応じて相談や連絡など行える体制となっております。また病院の相談員や新しい支援先と連携し、協力していくように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中やご家族からの情報などにより入居者様が支援してほしいと思っていることを把握し、支援に活かしている。要望や意向を伝えられない方に対しては表情や生活歴、ご家族様からの情報から把握するように努めています。	本人や家族とはコミュニケーションをとり、情報を得るようにしている。要望を伝えられない方に関しては、普段からその時々表情などを観察し、良否を把握するように努めている。受診の際は受診シートを医師や家族にご記入いただくことで記録に残し、その内容は担当者からフロア会議で共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や本人の趣味嗜好を本人や家族から聞き取ったものや、その時々「望む生活」を聞き取りながら、ケアプランを作成し、支援に繋げております。	入所時に利用者やご家族より、今までの生活や趣味嗜好などをお聞きしている。そのアセスメントを基に計画を立てられ、今までのように暮らしていただけるよう支援されている。又、健康面からみて散歩などの運動を取り入れるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の有する力に応じて、洗濯物を畳んでもらったり、食事の挨拶をもらったり、日付の確認をもらったりなど、日々の生活の中で役割を持てるよう支援している。生活の中で、スタッフは入居者様の日々の状態を観察し、それぞれの有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人で一人から二人の入居者様を担当しており、毎月のモニタリングやケアプランの更新時にアセスメントをおこなってもらい、その際に本人やご家族にも意向の確認を行いながら、また出来ない事を支援するだけでなく、本人のやりたいことや楽しみのある生活が送れるように介護計画を作成している。また毎月フロア会議で入居者様の状況を共有し、日々のケアに活かしている。	職員は担当制をとっており、モニタリングはその利用者の担当が実施している。その内容を基にフロアスタッフの意見を聞き、計画担当者が計画を立てている。転倒による骨折や入院など状況に変化があった際は、必要であればすぐにプランを変更されている。エアマットの変更時は、支援内容に変更がないか確認し、必要があれば計画の見直しをされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のモニタリング用紙や主治医への情報提供シート、タブレットに記録を入力している。また、文章だけでなく、写真も取り入れて、入居者様の普段の様子や健康状態、症状を職員間で共有しております。また改善すべき点も共有し話し合いの場で検討しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や外出、外泊など、入居者様やご家族様とコミュニケーションを取り、その時々生まれるニーズに対して、併設の小規模多機能事業所と連携しながら、支援を行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員だけでなくご家族にも近隣への散歩やドライブ等の外出に同行してもらっている。また、避難訓練や運営推進会議では地域住民にも参加してもらっている。県外等の面会についても面会の機会を作り、社会面も含めた本人の持てる力を維持できるように努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医を利用されている方が多いが、個々のかかりつけ医を利用されている方もおられます。体調の変化などがみられた場合は、速やかにご家族様と主治医に連絡し、相談の上、専門病院を受診するなど適切な医療を受けられるように支援しております。	かかりつけ医の往診は月に2回あり、訪問歯科については家族が依頼されている。家族と通院されている方もおり、精神科、眼科、化学療法など病院に通われている。体調に変化が見られた場合は、主治医や家族と連絡をとり対応されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や症状を看護師に報告・相談し、適切な医療連携ができるように努めている。また情報は申し送りや個人ファイルにて情報共有を行っております。夜間等、看護師不在時にもオンコール対応しており、急な変化にも対応できるように支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は書面にて入居者様の情報を提供し、入院先でも適切な対応ができるように努めております。また入院後も医師、看護師、相談員、ご家族様と連携を取り情報交換し、関係づくりを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時やケアプラン更新時に今後の成り行きのことを話し合っております。医師の診断により終末期となった場合は、ご家族様と今後の対応について改めて相談させていただき、状態・方針を共有し、希望にそった支援になるように努めております。	看取りを希望される方もおり、同意書をいただいている。終末期になると医師から家族に説明があり、今後の方針など、看取りについて家族に確認をされている。医師、家族、看護師、介護士が連携をとり、希望にそった看取りが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は管理者や看護師に連絡し、指示を仰ぐことしております。また、初期対応がしっかり行えるように、マニュアルも整備されております。内外の研修にも参加し、フロア会議で毎月話し合いを行うことで日頃から対応できるように取り組んでおります。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の連絡網や対応についてわかりやすく、簡潔に記載してあるものを各フロアに掲示してあります。また緊急時に対応できるようにマニュアルを基にした研修を行っております。	下肢筋力低下による転倒などがあり、緊急時はマニュアル通り、看護師、管理者に連絡が入り、緊急対応されている。又、夜間などはフロアごとに夜勤者がおり、応援体制が整備されている。緊急時対応の研修は定期的に関催され、一人ひとりが緊急対応できるようにしている。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	かかりつけ医の先生とは往診時以外にも、入居者様の変化に伴い相談し、指示を仰いでいます。また協力医療機関や協力医療施設とは、病気・入院・重度化した入居者様の相談をさせてもらっております。	介護老人福祉施設などとも連携がとれており、希望があれば空き状況なども確認されている。重度化により転所される場合も転所先と連携をとり情報共有されている。病院に入院された場合は、入院の状況や退院カンファレンスなどでその後、対応すべきことなどを確認し、支援体制を整えている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜間は各フロアに職員を配置しています。また緊急対応が必要になった場合は他階からの応援協力を得ることで、看護師、医師、管理者等と連絡できるようになっております。	夜間は各フロアに夜勤者がおり、緊急時は応援体制が構築されている。マニュアルにそって、医師、看護師、管理者と連絡をとり対応されている。緊急時こそ、一人で対応せず応援を要請するように日頃より周知されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害や火災などを想定した訓練は毎年2回行っております。訓練の際に消防署員と実際の避難方法について話し合い、当事業所のマニュアルに組み込んでおります。BCPも各フロアの優先順位を考慮したものを作成しております。また、状況の変化に対応できるよう、様々な状況を想定した机上訓練も行っております。	訓練については火災や水害を想定し、上下階に移動する訓練が実施されている。過去に浅野川の氾濫もあったことから、水害の対策や施設での避難を想定して備蓄などもBCPの内容で十分か検討が必要である。又、法人内の事業所で夜間に停電が発生した事もあり、ライフラインが使えないことを想定し、BCPに追記することを期待する。	法人内の事業所で停電があり、電気が使えない状況が起きた。ライフラインが使えないことを想定し、BCPIに追記することを期待する。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	避難訓練は年2回、実施しております。災害が発生した場合のマニュアルも作成しており、事業所内の委員会で検討しながら、適宜更新しています。、BCPも作成し、研修、訓練を実施しております。備蓄品についても適宜不足分を補充し、事業が継続できるように備えております。	避難訓練は1年に2回、BCPを基に実施し、消防設備の点検も定期的にされてる。今年は突発的に雨量が多い日もあったが、危険水位にはならず、避難勧告もなかった。普段より訓練を重ねているが、利用者の状況も日々変わることから上下階の移動の優先順位など定期的に委員会で検討することを期待する。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアを行う際は、ご入居者様と周囲の方々へ配慮した、お声がけをしています。特に、排泄の介助といったプライバシーに関わる場面では、丁寧なお声かけを行うように努めています。個人情報保護についての研修も定期的に行い、個人情報保護の意識向上にも努めております。	排泄の介助や入浴の介助などはお声かけも含め、十分に注意を払い、ドアの開閉などもプライバシーに配慮されている。今年の実業計画の目標でもある「優しい丁寧なお声かけ」にも取り組まれている。研修では個人情報保護についても周知されている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	身に着ける衣服や、お茶の温度など、生活の中で本人が選択する機会を設けるように働きかけ、自己決定の機会を持ち、自信を持つことや信頼関係の構築に繋がるように関わっております。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションや活動機会の提供や身体機能維持を目的として、基本的にフロアで過ごしてもらうようにしているが、本人の希望や状態に応じて居室でテレビを見たりラジオを聴いたり、自由に過ごせるようにしている。認知機能低下により意思を伝えることも難しい方の場合は、生活歴や以前の生活等を踏まえて、本人の反応をみながら穏やかに過ごせるように支援している。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目にはご家族の協力を得ながら、衣替えを行い、季節や環境温に応じた衣類を身に付けてもらうように支援している。また毎月来られる美容師の方に、ご本人やご家族の希望を伝えて、その人らしい装いになるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本日の献立を伝えたり、活動を促して空腹感を得られるように図ったり、入居者様とコミュニケーションを取りながら食事の介助をしたりするなど、食事が美味しく、楽しい時間になるように努めております。また、入居者様の持てる力を把握し、味見をしてもらったり、食器の片づけを手伝ったりしてもらっております。	レクリエーションとして、カップケーキやえびす、パンケーキなどのスイーツづくりを楽しみにされている。テイクアウトでは土用の丑の日に鰻を食べたり、アイスクリームやドーナツも喜ばれている。又、ラーメンやお肉が食べたいなどの要望にも対応されている。全介助の方はペースト状ではあるが、一つ一つ、料理を説明されている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や看護師と連携、相談しながら、入居者様一人一人に合わせた食事内容や食事形態を検討し、十分な栄養や水分が摂取できるように努めております。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しております。介助が必要な方には声がけしながら介助をし、各入居者様に合わせた口腔ケアを行っており、自身で行える方に関しては声がけ見守りを行い、口腔内の清潔保持に努めております。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行ができる方はトイレで排泄できるように、誘導や声がけを行い、必要な部分を介助しております。また、声がけは本人や周囲に配慮した声掛けを行うように努めています。本人の状態や排泄量に応じておむつやパッドなどの排泄物品を本人と相談の上選択し、使用しております。	現在は介護度の高い方が多く、オムツ方もおり、夜も排泄介助を行っている。自立の方や一部支援が必要な方は、排泄のパターンを理解し、周囲に配慮しながらお声かけし、トイレ介助をされている。排泄量などを考慮し、オムツやパットを利用者と相談し、選択されている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様ごとに毎日の排便確認を行っております。便秘の方には日々の水分摂取や運動、腹部マッサージなどの非薬物療法を行っておりますが、それでも便秘が続く場合は、主治医と相談の上、適宜下剤を使用してすっきり排便できるように支援しております。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は決まっていますが、本人の状態や希望に応じて、臨機応変に入浴日を変えております。入浴に気乗りがしない方は、時間をずらしてお声掛けをしたり、清拭や足浴だけ行ったり、本人に選択してもらいながら対応しております。	月曜日から土曜日で入浴されており、週に2回は入れるようにお声かけされている。受診がある日や体調がすぐれない日など臨機応変に入浴日を変更されている。本人の体調などにより、清拭や足浴で対応される場合もある。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的にはご本人様の過ごしやすいようにして頂いておりますが、昼夜逆転にならないように、日中に声がけし、起床を促したり、短時間のお昼寝をおすすめしたりして、夜間は安眠できるように支援している。また、一人の時間や空間となる居室での時間を大切に、プライバシーを尊重しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は完全に嚥下するまで確認しており、誤薬がないように職員でダブルチェックを行っております。新しい薬が処方された場合は電子カルテ上の記録や口頭での申し送りを通して情報共有を行い、内服忘れなどの事故予防に繋げるとともに、副作用症状の出現や、薬剤の効果について観察を行っております。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食べることを楽しみにされている方が多いので、テイクアウトや行事食の際に入居者様に希望を聞いて企画しております。家事等の役割分担もありますが、入居者様同士で不安になっている他の入居者様に声掛けして下さったり助け合って生活をされています。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩には出かけるようにしている。また、ご家族にも近隣への散歩や買い物などに一緒に行ってもらったりしている。	近隣への散歩は行っており、ご家族と散歩される方もいる。買い物が好きで、カートを押しながらお店を歩くことも運動になるので、天気にも左右されず運動不足の解消にもつながっている。買い物ではふりかけやおやつなど購入され、楽しいひとときを過ごされている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご本人で管理したり、使用することができる方に関しては、職員が付き添い、買い物の支援を行っております。その他のご本人が管理するのが難しい方に関しては施設でお預かりしたり、ご家族様の管理となっております。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様やご家族様が希望された場合に居室でゆっくり電話できるように支援しています。携帯電話をお持ちの方はご家族や本人の同意の上、通話履歴の確認をして、折り返しの電話をかけるように支援することもあります。暑中見舞いなどの手紙が来たときは、本人に返信するかなどの確認を行い、希望があれば手紙を出す支援もしております。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は毎日掃除しており、皆様が過ごしやすいうように普段から清潔を保つように努めております。また、社内の委員会と協力して安全で過ごしやすい環境になるように整備しております。その他、感染症対策も兼ねて換気を心掛けており、気持ちよく過ごせるように取り組んでいます。	毎朝カーテンを開けて日光を取り入れている。エアコンの風を嫌がる方もいるので風が直接当たらないように工夫されている。観葉植物なども置かれ、水やりやテーブル拭きなど、利用者も積極的に取り組まれている。季節を取り入れるために、現在は、クリスマスのディスプレイを作成されている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファやいすがあり好みの場所を選択し過ごせるようにしているが、皆様座りなれた場所で過ごされることがほとんどで、独りになりたいときは居室に行かれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染対策の為、寝具類は施設で用意させて頂いておりますが、それ以外の物は馴染みのあるものを使用できるようにご家族にご協力いただいております。テレビや冷蔵庫を持ち込まれたり、家族の写真を飾られたり、入居者様が安心して生活できる空間になるように支援しております。	入所時に馴染みのものを自宅から持ち込まれている。現在使用していない歩行器など、通路をふさぎ歩行の妨げになるものは持ち帰っていただいている。衣類も多すぎるため着ていないものは持ち帰っていただき、利用者が生活しやすいように配慮されている。時にはテレビやラジオなどで個別の時間を心地よく過ごされている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子であっても自走できる方には、安全を確保した上で、フロア内を自走してもらっています。また、男女に関係なく、食器を拭いたり、洗濯物を畳んで頂いたり、できる限り生活の中で役割を持ち、出来ることは自分で行ってもらうように支援しております。		